

入来院のこと（2）

弁護士・みぞぐち法律事務所

溝口 敬人



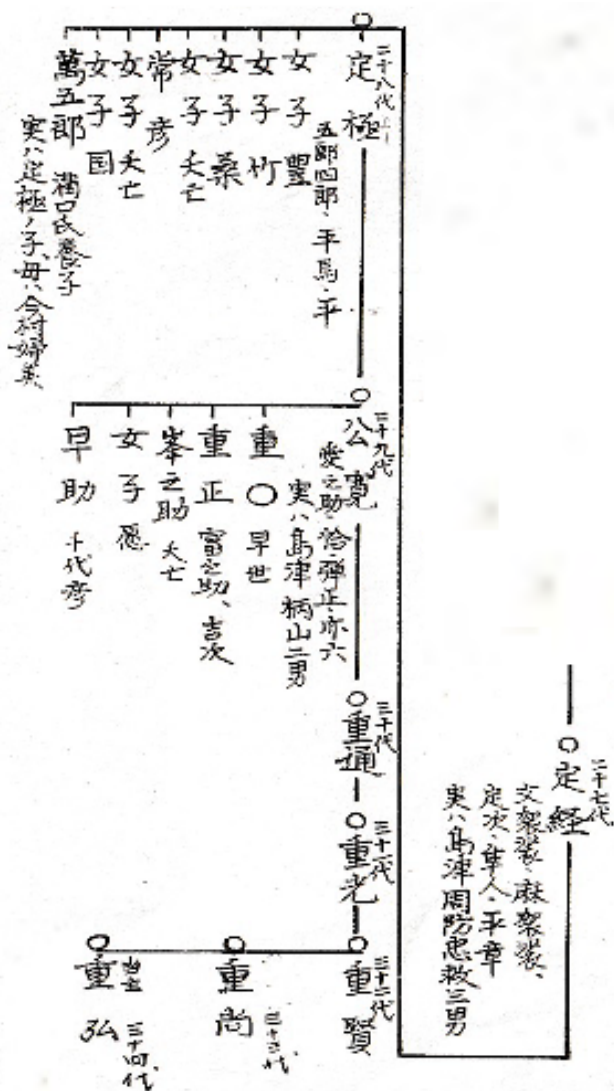
入来院氏^{いりきいん}が600年に及ぶ拠点とした入
来の地（薩摩川内市入来町）は、入来麓の武
家屋敷群が残り、清色城跡^{きよしき}も残っている。清
色城は、東北に川内川下流の樋脇川（清色川）
を抱き、西南に谷が巡る中世の山城で、本丸
のほか5つの主な曲輪を配し、山上に水田も
あったという。入来麓はその麓に形成された
武家集住地で、玉石垣と生垣が連続した区割
りの歴史的景観が残っている。

入来院氏は、相模国渋谷谷庄の地頭・渋谷光
重が宝治元年（1247年）の宝治合戦の恩

賞として、薩摩北部の東郷、祁答院^{けどういん}、高城^{たき}、
入来院、鶴田^{つるた}の領地を得て、次男から六男を
下向させたのが始まりで、五男・定心が入来
院氏の祖である。この渋谷5宗（族）の中で
は、入来院氏の威勢が最も揚がり、他の一族
とよく連携を保った。6代重門から戦国時代
の終わりまで200余年に渡って島津氏と死
闘を続けたが、島津氏と利害が一致する時は
よく協力もしあっていた。『入来町誌（上巻）』
に添付されている入来院の系図で、一番左側
の溝口萬五郎が私の祖父である。

清色城は島津氏に落城させられたことが
ある。応永2年（1396年）に守護島津元
久から攻められた時には、菱刈氏、牛屎氏の
応援を得て退けた（山引合戦）。しかし、応永
4年（1398年）に、島津元久軍5千、島
津伊久の軍2千等の大軍によって清色城が包
囲された際には、食料が尽きたため和を求め、

他方、島津氏との協力関係で特に目を引くのは11代重聡である。文明5年（1473年）に元服し、延徳2年（永伝元年、1490年）に父・重豊の譲を受け家督となった。永正5年（1508年）に守護島津忠昌（奥



入来院の系図 (抜粋)

州家）が自害した後、後を継いだ島津忠治、忠隆の兄弟ともに短命であつたが、重聡は、忠治によく協力し、忠治から父のように信頼を寄せた書状が5通残っている。南九州は大きな騒乱状態となり薩隅日の「三州大乱」といわれる状況となつたが、忠治の末弟・島津勝久（忠兼）を軸に、島津実久（薩州家）と、島津忠良（日新斎、相州家）・貴久父子の三つ巴の争いとなつた。

薩州家・実久は、北薩地域に勢力を拡張していたため、川内川下流域の權益を巡って渋谷氏一族と対立し、忠良父子と入来院氏との利害関係が共通のものとなつていた。重聡は忠良父子の味方がほとんどない中で、忠良父子と提携して各地の合戦に出陣して活躍したほか、娘（雪窓院）を貴久に嫁がせ、天文2年（1533年）に長男・義久、天文4年（1535年）に二男・義弘、天文6年

（1537年）に三男・歳久が誕生している。

貴久は天文14年（1545年）に守護職を承継し、父・忠良の補佐によつて善政を施した。忠良は聡敏で仁慈の心が厚く、いろは歌を作つて領民を教化したことが知られている。

重聡の嫡子・12代重朝は、天文4～5年（1535～6年）頃に家督を承継した。重朝の時代には、川内地方全土のほか錦江湾に到る地方にまで勢力を広げた。広大な所領を手に入れた。しかし、重朝は驕傲なふるまいを見せるようになり、入来院氏の勢力拡大をおそれた貴久は、これを戒めて領地の一部を没収した。天文13年（1544年）には、重朝の妹で貴久の室の雪窓院が病没した。重朝は、天文17年（1548年）、加治木の肝付氏、帖佐の祁答院氏、蒲生氏らと組んで島津氏に敵対したが、翌年に加治木城が陥落すると、罪を謝し降伏した。ところが、重朝は、

天文23年（1554年）、祁答院氏、蒲生氏らと連合してふたたび島津氏に叛いたが、岩剣城の戦い、蒲生城の戦いで敗れ、渋谷一族は本領に退いた。

重朝を継いだ13代重嗣は、父・重朝と違つて勤仕^{きんし}の礼を怠らなかつたため、貴久の信任も厚く恩免を受け、永禄2年（1559年）には鹿児島^{鹿児島}の知行地を拝領している。しかし、永禄年間（1558年～1569年）になると、貴久は薩隅2州のほとんどを征服し、天文年間から頑強に抵抗していた渋谷一族も、入来院氏と東郷氏を残すだけとなった。そのため、重嗣は、元龜元年（1570年）に東郷氏と親族会議を開き、領土をことごとく獻じて島津氏に降伏した。貴久は、これを許し、入来院氏に清色（入来院）、東郷氏に東郷を与えた。入来院氏の存亡をかけた英断であつたが、存続できた基礎には重聡の島津氏との協

力関係の存在があつたものと思われる。『入来院史』は、この場面を次のように簡潔に記述する。

「此の頃島津氏の武威旭日の天に冲する勢あり、さしにも強勢を待みて天文年間より頑強に抵抗せし渋谷一族も、遂に勢窮まり、元龜元年正月 重嗣 親族を会し、議して曰く。我が族島津氏に抗争する事久し、今や一族孤立するに至り、為すべきの道尽きたり、悉く領土を獻じ罪を軍門に請はんと、一族之に同意す。」

重嗣の子・14代重豊の代になると、入来院氏は、島津氏の日向平定（天正4年、1576年）、耳川の大合戦（天正6年、1578年）、肥後征伐（天正8年、1580年）と相次いで従軍し活躍をしている。重豊の後には島津氏からたびたび養子に迎え、島津氏の一門として遇されるようになった。（完）